

福山大学大学院 薬学研究科 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2019年度

薬学研究科

中長期計画	<input type="checkbox"/> 次の薬学研究科の教育目的に沿って、研究、教育を行い、博士(薬学)の学位を授与する人材を養成する。 薬学研究科医療薬学専攻博士課程においては、医療人としての教養と倫理感を身に付け、医療薬学の基礎的、社会的および臨床的な教育研究を通じて、医療に貢献できる専門的知識・技能・態度を修得し、未知の問題を解決する優れた研究能力を有する薬剤師を養成するとともに、将来の医療薬学を支える指導者、教育者および研究者を育成することを目的とする。

2019年度

薬学研究科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学研究科の教育目的は、簡潔に文章化されており、具体的かつ明確である。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.204 ②薬学研究科HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm/grad-pharm-policy/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
	現状説明
年度目標	現状維持。
年度報告	
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.204 ②薬学研究科HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm/grad-pharm-policy/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
	現状説明
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①自己点検委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	□薬学研究科委員会での議論およびFD/SDにより教職員に周知し、理解・支持を得ている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	□薬学研究科の目的は、大学要覧、学生便覧、大学HPで、公表し周知している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.204 ②薬学研究科HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm/grad-pharm-policy/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	□薬学研究科の目的は、中長期計画へ反映している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度薬学研究科自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学研究科の目的に沿って、三つのポリシー(BP、CP、AP)が作成されている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.204 ②薬学研究科HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm/grad-pharm-policy/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 薬学研究科の目的を果たすため、資格審査を受けた教員で教育研究組織を構成しており、整合性は取れている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第8回大学院薬学研究科教員資格認定部会会議事録 ②R1年度大学院担当教員一覧
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

基準2. 学生**領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2019年度

薬学研究科

中長期計画	学生の受入れ □薬学研究科は“医療に貢献できる高度の知識と実践力を身に付けた、高い研究能力を有する人材”を養成するため、次のような人を求めていく(AP)。 ・医療に関する諸問題を広く考究し、医療の進歩や学問の進展に寄与できる人。 ・実社会において薬剤師など医療技術者として活動し、さらなる知識と実践力を意欲的に高め、研究能力を磨くことのできる人。 ・医療の現場において必要な医療人としての倫理感を養い、良好な対人関係能力を有する人。
	学生の支援 □薬学研究科では院生個々に指導教員を定め、院生が学修に専念し、安定した院生生活を送ることを可能にする仕組み及び組織を整備し、研究科全教職員および各種センター、委員会、担当部局が学生支援に努めていく。
	学修環境・学生の意見等への対応 □薬学研究科の理念・目的を達成するために必要な学修環境(教育研究施設・設備の更新、および人的資源)を確保していく。 □機器類や設備品の経年劣化が進み、さらに消耗品費も極めて不十分であり、機器の新規・更新及び消耗品費の増額を強く要望するとともに、現有機器のメンテナンスを充実させていく。 □キャンパスアメニティ、環境安全性に関する検証を行い、改善が必要であれば要望していく。 □院生の意見は、複数の指導教員を中心とした全薬学研究科教職員でききとり、必要であれば該当する委員会に提示し対応していく。

2019年度

薬学研究科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	□教育目的を踏まえたAPを策定し、学生便覧、HP、入試募集要項で公表し、周知を行っている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.204 ②薬学研究科HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm/grad-pharm-policy/ ③令和2年度福山大学大学院薬学研究科(博士課程)学生募集要項
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	□複数の指導教員が、随時学生の成果を評価し、APとの適合性、また、APの適切性を検証している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受け入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	□薬学研究科委員会で学生の受け入れ状況を検証している。
年度目標	現状維持。
年度報告	2019年度は3人の入学者があり、やや増加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	□入学定員は充足していない。 □薬学研究科としての研究・教育を活性化し、大学生に大学院の実質的な魅力を発信できるようにしていく。
年度目標	□院生、教員の研究業績を作成していく。
年度報告	大学院薬学研究科教員資格認定部会で、教員の研究業績について調査し、研究科委員会で結果を報告しますます業績積み上げを鼓舞した。大学院院生は、6人(D3:1人、D2:2人、D1:3人)に増加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第9回大学院薬学研究科教員資格認定部会議事録 ②令和元年度第9回(第284回)薬学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	□本学の各種委員会活動に委員あるいは幹事として参画することで教職協働を推進しており、委員会メンバーは福山大学諸委員会構成員名簿で学内で公表している。 □FD・SD研修会などを教員と職員が協働して行っており、FD・SD研修会は学内公表している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学諸委員会構成名簿 ②FD/SD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	□院生を非常勤助手に採用していただいている。
年度目標	現状維持。
年度報告	大変有効に活用している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	□研究科のプログラム全てがキャリア形成支援になっており、有効に整備されている。
年度目標	現状維持。
年度報告	
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度大学院シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	□過去3年間に修了生はない。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部、就職課の支援を受けることができる。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就職課からの連絡、チラシ、掲示
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 指導教員が中心になって、学部の就職ガイダンス等を利用して、適切に就職指導を行っている。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就職体験発表会案内 ②学内合同企業説明会案内
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 非常勤助手に採用されている。また、JASSO及び各種企業奨学金などを利用できる。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各種奨学金案内
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> ハラスメント発生防止のための規定は全学的に整備されている。 <input type="checkbox"/> 薬学研究科では、薬学部とともにハラスメント発生防止に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 薬学部よりハラスメント対応委員会委員に教員を選任し、かつ2人の薬学部教員が相談窓口となるハラスメント相談員となっている。学生は学部、所属を問わずにいつでも相談員と相談することができる。 <input type="checkbox"/> 毎年のオリエンテーションで全院生にキャンパスハラスメントおよび相談員について説明し周知させている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①オリエンテーション資料 ②大学HP https://www.fukuyama-u.com/disclosure/activities/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 課外活動については全学的な方針に従って取り組んでいる
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 教育研究環境の整備に関する方針は薬学部教授会で報告されており教職員で共有している。 <input type="checkbox"/> 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保については、建物委員会が検証しており、問題点については薬学部事務を通して改善を依頼している。
年度目標	現状維持。
年度報告	学部とともに、施設・設備の老朽化の改善、新棟の準備に努めている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①修理願
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	□実習・実験施設、図書館等を多くの講義演習および自己学習で活用している。
年度目標	□実習・実験施設等を十分に活用するために、実習・実験に用いる機器の保守・補修や更新、新しい実習項目に必要な機器等の申請を行う。
年度報告	施設の保守、機器の更新等、学部とともに申請し、実習・実験施設、図書館等を活用した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度予算申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	□新棟準備委員会や薬学部建物委員会が、施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保などを要望し、また教育環境の向上と改善すべき問題点を薬学部新棟案に盛り込んで提案している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①未来創造館設計図
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	□学生数にみあつた適切な講義室で講義を開講している。問題点については薬学部事務室をとおして改善している。
年度目標	□授業に支障が出ないよう改善を要望する。
年度報告	全大学院生が6人と少ないため支障はでなかった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度教務の手引きp.173, 174, 198
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	火災検知器などの防災・防火設備は、全学的な方針に従って整備点検を行っている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	<p>□安全衛生委員会の方針に従って、毒劇物の管理は各実習・研究室単位で管理しており、使用記録を取っており、年に1回在庫量を確認して薬学部事務室に報告している。</p> <p>□危険物については、取り扱い責任者を定めた危険物倉庫で管理している。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①毒物・劇物保管リスト
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	<p>□薬学部防災安全対策委員会を組織し、避難経路の掲示などの取り組みを行っている。</p> <p>□安全衛生委員会(確認!)に従って、オリエンテーション等で安全教育・啓発を行っている。</p> <p>□実習ならびに研究室ごとに日頃から安全教育を行っている。</p> <p>□災害時避難マニュアルは全学的に作成されている。</p> <p>□防災訓練等を実施については全学的な取り組みに参加している。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①災害時避難マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	<p>□主指導教員1人、副指導教員2人の3人の教員が院生の意見を聞き取っている。</p> <p>□収集された意見は内容に応じて関連委員会に伝えられ対応している。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	<p>□主指導教員1人、副指導教員2人をはじめ全教員が随時相談に応じ、必要であれば保健管理センターに紹介している。</p> <p>□収集された意見は内容に応じて関連委員会に伝えられ対応している。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度保健管理センター報告書 ②2019年度学生便覧p.228, 244
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	<p>□主指導教員1人、副指導教員2人をはじめ全教員が相談に応じ、院生の意見・要望を把握している。</p> <p>□収集された意見は内容に応じて関連委員会に伝えられ対応している。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

基準3. 教育課程

領域： 卒業認定、教育課程、学修成果

2019年度

薬学研究科

中長期計画	□医療およびそれに関連する分野に貢献できる人材を養成するために、医療人としての倫理観を身に付け、自立して研究活動を行い医療の進歩や学問の進展に寄与できる豊かな学識を授ける。
	<p>□医療の進展に沿った教育研究を遂行するため、全薬学研究科担当教員に加えて、有効な外部資源を活用していく。</p> <p>□薬学研究科の目的に沿ったDPを満たすように、授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで学位を申請するための論文を作成し、審査及び最終試験に合格した者に修了を認定し博士(薬学)の学位を授与する。</p>

中点検項目 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	□DPは薬学研究科の目的に沿って策定され、学生便覧、HPに公表し、周知されている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm-policy/ ②学生便覧p.204
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	□薬学研究科の審査基準等は、薬学研究科委員会で策定され、学生便覧、HPで公表し、周知されている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm-policy/ ②学生便覧p.204, 207, 208
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	□薬学研究科の審査基準等は、薬学研究科委員会で策定され、学生便覧、HPで公表し、厳正に適用されている。単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等は、学生便覧、HP等に公表している。学位取得に関してはループリック評価を使用し、学位論文の公聴会を公開している。評価結果は、薬学研究科大学院運営委員会および薬学研究科委員会で適正、厳正に行われていることを検証している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm-policy/ ②学生便覧p.207, 208
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 3-2. 教育課程及び教授方法	
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	□CPを策定し、学生便覧、HPに公表し、周知されている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm-policy/ ②学生便覧p.204
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	□医療に貢献できる高い研究能力を有する人材の育成を目的としており、CPとDPとには一貫性がある。
年度目標	現状維持。
年度報告	□医療に貢献できる高い研究能力を有する人材の育成を目的としており、大学院薬学研究科運営委員会で薬学研究科の目的に合うCPとDPを策定し、薬学研究科委員会で一貫性があることを検証した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院HP https://www.fukuyama-u.com/grad/grad-pharm-policy/ ②学生便覧p.204 ③2019年度第1回薬学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	□CPIに沿った、3つのワークのもとに教育課程を体系的に編成している。 □医療の進展に沿った体系的教育研究を遂行するため、全薬学研究科担当教員に加えて、有効な外部資源を活用している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p205, 209
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	□薬学研究科では教養教育は行っていない。専門教育は、十分実施されている。

年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019 年度学生便覧p.205
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 1年次から「博士論文基礎演習I」を開始し、順次的に研究能力、発表能力を養えるように実施している。 <input type="checkbox"/> 薬学研究科の特色となる医療薬学の発展的かつ高度な知識や実務能力を養うために、高度医療薬学研修を配置している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.205
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> DPIにあるように、「医療に貢献できる高い研究能力を有する人材の育成を目的」として修了判定するため、修了判定ループリックを定め、学生便覧で公開している。
年度目標	ディプロマ・ポリシーへの到達度を評価するための卒業判定ループリックの策定したので、今年度から検証を始める。
年度報告	DPIにあるように、「医療に貢献できる高い研究能力を有する人材の育成を目的」として修了判定するため、修了判定ループリックを定め、研究科運営委員会で整合性を検討し、研究科委員会で検証している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧p.207
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目		3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。	
現状説明	<input type="checkbox"/> アセスメントポリシーは、まだ策定されていない。学位授与の審査基準(ループリック)は策定している。	
年度目標	<input type="checkbox"/> 学修成果の点検・評価方法の運用の検証、アセスメントポリシー策定について考えいく。	

年度報告	アセスメントポリシーを策定していない。
達成度	C
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	□学修成果の点検・評価方法の運用の検証、アセスメントポリシー策定について考えいく。
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	□院生アンケートの集計結果は、HPIに公表し、研究科長を通じて指導教員、院生にフィードバックしている。
年度目標	□現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①院生アンケート ②2019年度「大学院の教育・研究等」に関するアンケート」総括
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2019年度

薬学研究科

中長期計画	□大学院薬学研究科担当教員は、教授及び准教授で構成され、全員、薬学研究科委員会に所属する。
	□研究科の教学に関する重要事項は、大学院運営委員会で検討され、薬学研究科委員会で承認された後、実施していく。
	□「薬学研究科の目的」を実現するために、研究教育指導を行う有能な人材を確保することを目指していく。
	□教育・研究の充実を図るために臨床教授などの外部教員を招聘していく。
	□大学院担当教員は、より活発な教育・研究が行われるよう努力し、継続的にその能力を審査、検証していく。
	□研究は、大学院教育の基盤となるものであるので、常に活性化するよう促し、研究助成金などに多くの教員が申請するよう促していく。

2019年度

薬学研究科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	□学長の大学の意思決定と教学マネジメントにおける適切なリーダーシップは確立され、発揮されている。薬学研究科長の薬学研究科における適切なリーダーシップは発揮されている。
年度目標	現状維持。

年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	薬学研究科委員会で承認された、各種委員(学部と連携したものを含む)は適切に分散された権限・役割を有し、その委員会で薬学研究科の教学に関する重要事項の原案を作成し薬学委員会に提案している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年第1回(第284回)薬学研究科議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	年度初めに、学部と同様に、各種学部内、研究科内委員会を作り、教職員の配置と役割を明確化し、それぞれの責任においてその権限役割を発揮することで、教学マネジメントの機能性を高めている。院生を非常勤助手に採用し、職員業務の機能性、効率を高めている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度薬学部内委員会
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	□大学院教員認定部会によって審査された教員を適切に配置している。 □マル合教員の減少、高齢化が進んでおり、教員の資質の向上、若い教員の採用、および昇進の促進が必要である。
年度目標	学部とともに教員の資質の向上啓発、採用要望、昇進要望を行っていく。

年度報告	□大学院教員認定部会によって審査された教員を適切に配置している。 □薬学研究科担当教員は、教授24人、准教授11人からなり、内教授15人がマル合教員である。また70歳代1人、60歳代13人、50歳代10人、40歳代11人で、内4人が女性教員である。 □教員の資質の向上、若い教員の採用、および昇進の促進を継続していく必要がある。人事について、採用、昇進などを大学に要望した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第9回大学院薬学研究科教員資格認定部会議事録 ②薬学部人事要望書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	大学院設置基準の教員数は今の所満たしているが、マル合教員の減少、高齢化が進んでおり、教員の資質の向上、若い教員の採用、および昇進の促進が必要である。
年度目標	学部とともに教員の採用、昇進を要望していく。
年度報告	新規採用教員を含めて大学院指導教員にあたれるマル合教員が来年度から15人になる。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第9回大学院薬学研究科教員資格認定部会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	学部と連携して、また大学院独自の教育・研究FDを行っている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度薬学部・薬学研究科FD・SD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	□少なくとも年に1回、全教職員でSD研修を実施している。 □薬学部・大学院FD・SD研修会を年5回程度開催している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度薬学部・薬学研究科FD・SD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	<p>□2017年度から検討していた修理進捗状況確認表を用度課を基点としてファイル共有を稼動している。</p> <p>□年間見積りのデータベース作成により物品購入の効率化を図っている。</p>
年度目標	更に、改善・発展させ、事務処理の効率を図っていく。
年度報告	現状説明の2件については、データベースの更新をしながら利用している。 教職員管におけるKarinによるデータの共有化を模索中である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Office365 (Share Point)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度		薬学研究科
中点検項目		4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。	
現状説明	<p>□教員は、事務作業や会議等にかなりの時間を取られており、研究する時間の確保は不十分である。</p> <p>□研究のための施設設備は老朽化し、その整備、更新、新しい機器の導入は不十分である。</p> <p>□新棟の研究環境について計画中である。</p>	
年度目標	<p>□教員が研究する時間をできるかぎり確保する。</p> <p>□現有設備の整備、更新、新しい機器の導入を要望していく。</p> <p>□新棟での研究施設設備の設置、管理体制について検討していく。</p>	
年度報告	<p>□教員は、事務作業や会議等にかなりの時間を取られており、研究する時間は十分ではない。</p> <p>□新棟での研究施設設備の設置、管理体制については大枠は決まっている。</p> <p>□新棟竣工後の新しい機器への更新については、現在年次計画(原案)を提出しており、それについては協議中である。</p>	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①機器納品書 ②出勤簿	
次年度の課題と改善の方策		

点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	<p>□研究倫理の遵守について、研究倫理委員会、不正防止計画推進室が設置され、研究倫理に関する学内規定は整備されている。</p> <p>□不正防止計画推進室の指導のもと、研究関連ガイドブックが作成され、eラーニングを使うなどして、全教職員、学生に対してコンプライアンス教育・研究倫理教育がなされている。</p> <p>□これらは、コンプライアンス推進責任者により定期的にモニタリングされている。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<p>①2019年度研究活動不正防止計画推進室会議議事録</p> <p>②e-learnin修了書</p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	<p>□学部内のルールに沿って資源の配分を行っている。</p> <p>□運用状況については薬学部事務室で管理し適正に行われている。</p> <p>□研究成果については、学会等で発表し、学会誌やなど科学誌に投稿し発表している。発表している研究をまとめた薬学部研究年報を今後も毎年発行して、全員に配布していく。</p>
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<p>①薬学部教授会議事録</p> <p>②薬学部研究年報</p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	公的研究費の運営・管理は責任体系が構築されており、コンプライアンス教育にて周知されている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<p>①「研究活動における公的研究費の管理・監査のガイドライン」</p> <p>②2019年度研究活動不正防止計画推進室会議議事録</p>
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2019年度

薬学研究科

中長期計画	<input type="checkbox"/> 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクルは問題なく運用されているため、現状を維持する。 <input type="checkbox"/> 薬学教育評価機構の第三者評価に適合できるよう問題点の抽出と改善を実施していく。 <input type="checkbox"/> 入試種別、GPA、進級、共用試験、卒業、国家試験など、学生指導に役立てることを念頭に、データの収集・解析を継続する。解析結果は教授会で報告し、学生指導に役立てていく。

2019年度

薬学研究科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 福山大学自己点検評価規程に基づき、質保証を検証する組織として、学部内に自己点検評価委員会・外部評価対応委員会を設置している。委員長は学部長が務め、学部内責任者となっている。 <input type="checkbox"/> 毎年、上記委員会が学部自己点検・評価書及び計画書を作成し、それらを全学自己点検評価委員会・外部評価対応委員会および改革推進委員会が点検している。改革推進委員会が自己点検・評価に関わる全学的な最終責任者となっている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度自己点検評価書 ②福山大学自己点検評価規程
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 学部内に自己点検評価委員会・外部評価対応委員会を設置して、自主的・自律的な自己点検・評価を実施している。これらの結果は、karinおよび福山大学ホームページにアップロードして学部教職員が閲覧できるようにし、結果を共有している。 <input type="checkbox"/> 各教員が教育・研究・大学運営等に関する目標を計画し、実績評価を行っている。 <input type="checkbox"/> 研究成果については、学会等で発表し、学会誌やなど科学誌に投稿し発表している。発表している研究をまとめた薬学部研究年報を毎年発行して、全員に配布している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①2019年度福山大学自己点検評価書 ②福山大学HP (https://www.fukuyama-u.com/wp-content/uploads/2019/12/18.平成30年度自己点検・評価書(薬学研究科).pdf)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	□学部とともにに行っている。薬学部IR委員会を組織し、入試種別、GPA、進級、卒業、国家試験など、学生指導に役立てるなどを念頭に、データの収集・解析を行っている。 □解析結果は教授会で報告し、学生指導に役立てている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部情報共有ページ(アップローダー) (http://houkoku.fupharm.fukuyama-u.ac.jp/pine/upload/upload.cgi?) ②薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	□薬学研究科が実施する自己点検評価書は、全学で定められた書式を用いて作成している。この書式では、各点検項目について現状説明を記載し、当該年度に実施する年度目標を年度初めに記載する(P)。この年度目標に従って教育活動を展開し、年度末にそれを年度報告欄に記載している(D)。また、その目標に対する達成度をS、A、B、Cの4段階で自己評価している(C)。そして、次年度の改善課題と方策を記載している(A)。 □機能性は福山大学自己点検評価書において検証している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度福山大学自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	不正防止計画推進室の学部委員により、コンプライアンスにかかる具体策の実施、研修会等受講状況管理、モニタリング・改善指導、状況報告を行っている。
年度目標	現状維持。
年度報告	薬学部とともに現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②2019年度研究活動不正防止計画推進室会議議事録 ③e-ラーニング修了書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

薬学研究科

基準7. 福山大学ブランディング戦略**領域：「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）**

2019年度

薬学研究科

中長期計画	<input type="checkbox"/> 「瀬戸内の里海・里山学」をコンセプトとする研究や社会連携等を全学的に遂行することで、大学独自のブランドの確立を提案している。大学ブランディング戦略のうち以下のテーマに薬学研究科として係わりながら、教育研究を実施していく。 * 里山・里海のひと・まち・くらしの創造(自然と共に生し、持続可能で住みやすいまち・くらし) - 生活習慣病の新たな治療方法の開発 - 健康の維持・増進に関する研究 - 里のくらしを支える介護・看護支援システム
	<input type="checkbox"/> 薬学研究科独自のブランディング戦略としては、地域の健康維持のための貢献活動を実施する。 - 地域の医療機関と密に連携し、地域医療に貢献していく。 - 産官学民が連携し備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献していく。 - 福山大学大学院独自の教育を充実していくとともに、広く社会に周知していく。 - グリーンサイエンス研究センターと連携して特別研究を実施する。

2019年度

薬学研究科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトは、学部内に掲示し、さらに福山大学ホームページ等に掲載し、周知に努めている。
年度目標	現状維持。
年度報告	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトは、学部内に掲示し、さらに福山大学ホームページ等に掲載し、周知に努めている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学キャビネットKarin(薬学科→1,薬学部の基本的事項(薬学部全教職員)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	<input type="checkbox"/> 地域医療に貢献できる薬剤師を養成している。 <input type="checkbox"/> 地域の医療機関において治験審査委員などを派遣し、地域医療に貢献している。 <input type="checkbox"/> 地域の企業・医療機関などと共同研究を行い、地域医療に貢献している。 <input type="checkbox"/> グリーンサイエンス研究センターと連携して特別研究を実施している。
年度目標	<input type="checkbox"/> 現状維持。

年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学グリーンサイエンスセンターHP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	次に挙げる項目を薬学部教授会と連携して実施することで、未来創造人を育成していく。 1) 地域医療のための講演会や学会・研究会に講師を派遣している。 2) 学内外組織との共同研究を実施している。 3) 地域の保育施設・高齢者施設と連携し、コミュニケーション交流学習を実施し、人間性を高めている。 4) 国際交流センターが主導するUCR集中英語研修への学生の参加を積極的に勧めている。 5) コンケン大学(タイ)薬学生の日本での薬学研修に協力している。 6) 薬局グループが企画している海外(アメリカ)のドラッグストア視察研修を勧めている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm-posts/30322/ https://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm-posts/27134/ https://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm-posts/30307/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	□備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献するために、卒後教育研修会、福山大学薬学部・福山市薬剤師会シリーズ研修会や研究成果発表会などに取り組んでいる。 □グリーンサイエンス研究センターと連携した特別研究を企画し実施し、研究成果を学会等で発表して評価を受けている。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①日本薬学会第140年会要旨集 ②平成30年度大学院研究成果発表会プログラム ③第43回福山大学薬学部卒後教育研修会プログラム

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	□ 地域の中核となる薬剤師を養成するため、地域と連携した教育研究を推進し、成果は薬剤師養成率と就職率で検証している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度卒業生修了生進路一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	□ 地域の企業・医療機関などと共同研究を行い、地域医療に貢献している。 □ 地域の医療機関と連携して「高度医療薬学研修」を開講している。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院薬学研究科シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	□ 院生として自らの研究のみならず、人と関わる共同研究、指導能力の養成を実施し、学問にのみ偏重しない全人教育に取り組んでおり、その成果を学会等で発表し、評価を受けている。 □ 福山市や地域の薬剤師と連携して、健康ふくやま21フェスティバルや健康サポートフェア等において地域住民に対して健康に係わる啓発に取り組んでいる。
年度目標	現状維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①日本薬学会第140年会プログラム
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目		7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。	
現状説明	生活習慣病の新たな治療方法の開発、健康の維持・増進に関する研究に取り組んでいる。	
年度目標	現状維持。	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①日本薬学会第140年会プログラム	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	② 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。	
現状説明	学内研究助成金と共同研究費、科研費、企業助成金などの獲得に努めている。	
年度目標	現状維持。	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①各種研究資金申請書	
次年度の課題と改善の方策		
点検項目	③ 福山大学プランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。	
現状説明	<input type="checkbox"/> 各教員が個々に関連する学会において、その研究成果を発表している。 <input type="checkbox"/> 福山市薬剤師会などの外部組織と連携して研修会で最新の得られた知見を含め講演している。 <input type="checkbox"/> 各地の薬剤師会、医師会、学会などの研修会に講師として講演している。 <input type="checkbox"/> 研究成果発表会などで発表している。	
年度目標	現状維持。	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①日本薬学会第140年会プログラム ②福山大学薬学部研究年報	
次年度の課題と改善の方策		